

待 兼 山

大阪大学経済学部同窓会

2024年（令和6年）4月1日 第40号

ホームページ <https://www.web-dousoukai.com/machikaneyama/>



第25回同窓会総会（2023.7.1）



大阪大学経済学部の先生方（2023.7.1）



ECOCA幹部の皆さん（第15期総会2024.2.9）



同窓会 代表幹事会（2024.1.12）



トライ&トライ！

大阪大学経済学部同窓会 会長 **井上 ゆかり** 日本ケロッグ合同会社 代表職務執行者社長（33期・1985年卒）

今年も同窓会会報「待兼山」の発刊が叶い、関係者並びに会員の皆様に心から感謝申し上げます。

同窓会会長のお役目を頂き5年目に入りました。新たな価値を示すことで会費納入率を上げる為に施策を進めて参りましたが、残念ながら結果に繋がっておりません。PDCAサイクルの迅速化が必要であると痛感し、昨年7月の総会で意思決定機関を、2年に1回の総会から代表幹事会（年4回）へ移行することを提案し合意頂きました。引き続き新しい施策を積極的に試し、学び、修正し、同窓会活性化に繋げて参ります。

その中で進捗している事例をご紹介致します。

2021年から進めております『大阪大学 経済学・経営学のトビラ』は、西本副会長のご尽力で、順調に計画通

り実施されています。昨年の待兼山でご紹介致しました『新価値創造調査』の結果による施策も進めています。その中の学生コミュニティの形成については、田上副会長・玉江OFC事務局長のご尽力で、ECOCA（学生部会）との交流を増やしより深く広い絆が生まれ始めています。今後の展開が楽しみです。同窓会ホームページ並びに会員名簿システムのリニューアルについても、安竹事務局長のリーダーシップの元、今年中の完成を目指します。

卒業生の皆様には引き続き同窓会の更なる活性化のためにご助言頂くとともに、会費もしくは協賛金の納入、イベントへの積極的なご参加をお願い申し上げます。

末筆ではございますが、大阪大学経済学部の益々の繁栄をお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

第25回大阪大学経済学部同窓会総会を開催

同窓会活性化に向け、ガバナンスの見直し・会費免除制度の見直しを承認

2023年7月1日(土)、大阪大学経済学部同窓会の第25回総会をリーガロイヤルホテル大阪において約90名の参加を得て開催。ご参集いただきました皆様ありがとうございました。

総会は総会議事に引き続き、記念講演、懇親パーティの3部構成。記念講演はPwCコンサルティング合同会社の鹿島章会長(34期・1986年卒)にお話しいただきました(講演要旨は3ページに掲載)。

記念講演後、懇親パーティを開催し参加者が一堂に会して和気藹々と懇親。ECOCA(学生部会)、青年会の活動紹介を交え、最後は寮歌の披露もあり盛会のうち2年後の再会を約してお開きとなりました。



経済学部同窓会 第25回総会 リーガロイヤルホテル大阪「光琳の間」

14:30	総会
15:15~16:15	記念講演 「総合プロフェッショナルサービスファームへの道 —社会に必要とされる専門家集団」 PwCコンサルティング合同会社 会長 鹿島 章氏 (34期・1986年卒)
16:30~18:30	懇親パーティ

総会の概要を以下の通り報告します。

◆井上会長「大阪らしい自由闊達な同窓会に」

大塚一樹総会部会長(38期・1990年卒)の司会により開会。

冒頭、井上会長から、①前回はオンライン開催だったが4年ぶりの対面開催を喜びたい、②参加率および会費納入率の低下など同窓会が抱える課題と解決策について取り組んできた一代表幹事会の活性化(代表幹事の交代等)、「大阪大学経済学・経営学のトビラ」シリーズ講演会の実施、新価値創造調査、ECOCAへのサポート活動、③今回の審議事項は運営委員会や代表幹事



会で討議を重ねた結果である点をご理解いただきたい、④大阪らしい自由闊達な同窓会にするため引き続きのご協力をお願いする、⑤同窓会の復興に向けた第一歩として記憶されるような総会としたい、との開会挨拶があった。

◆開本名誉会長「学部、大学院の近況紹介」

開本名誉会長(経済学研究科長・経済学部長)より、①学部教育(ゼミ活動、インターンシップ(産学連携講義)、女子学生比率の向上)、②大学院教育(入試・授業をすべて英語で行う英語コースの立ち上げ、早期修了プログラム、R2PhD(博士後期課程内部進学者向け奨学金)第一号など)、③入試状況(学部は約3倍・総合型選抜も2倍程度の競争倍率、大学院の内部進学者も増やしていきたい)、④国際交流、教員の研究活動、⑤福田元研究科長の大学本部理事・副学長就任、など詳細な近況報告があった。

◆同窓会活性化プロジェクトの進捗等を報告

令和3年度および4年度の同窓会活動について、①会報「待兼山」の発行、②同窓会活性化プロジェクト(新価値創造調査、大阪大学経済学・経営学のトビラ開催実績・開催予定、ECOCAとの連携強化)、③支部活動(東京待兼会、名古屋待兼会)、④経済学部への支援(未来基金)、⑤学部70周年記念事業(「R2PhD奨学金」第1号誕生)を事務局長から報告した。

◆会則の改定を原案どおり承認

西本副会長(28期・1980年卒)より改定の趣旨、内容について、①ガバナンスの見直し・明確化(総会を懇親・意見交換の場とし、役員と各期の代表幹事で構成する代表幹事会を意思決定機関と位置づける)、②会費免除制度の見直し(40年経過後の免除制度を廃止、具体的な運用については代表幹事会で検討・決定)を説明し、異議なく原案どおり承認された。

◆令和3年度4年度会計報告、会計監査報告および令和5年度6年度予算報告

会計の宗像宏治郎氏(38期・1990年卒)より令和3年度および4年度の決算報告、会計監査の西尾方宏氏(23期・1975年卒)より会計監査報告が行われた。引き続き、宗像氏より令和5年度および6年度の予算について報告が行われた。

◆役員改選

事務局長より本部役員改選案(現行役員再任)について説明があり、異議なく原案どおり承認された。今回新たに、事業部会長に鈴木幹朗氏(34期・1986年卒)が就任された。

総会開催にあたり、役員、総会部会長、代表幹事、ECOCA有志、OFC事務局の皆様にご協力いただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

次回、2025年7月5日(土)にはより多くの同窓生の皆様とお会いできることを楽しみにしております。少し先にはなりますが、同窓生の皆様にはぜひご予定いただき、ご参加をお願い申し上げます。

事務局長 安竹素之(28期・1980年卒)

「総合プロフェッショナルサービスファームへの道」 —社会に必要とされる専門家集団—

PwCコンサルティング合同会社 会長 鹿島 章氏(34期・1986年卒)



◆監査法人からコンサルティングファームへ

私は1964年3月に大阪府守口市で生まれ、京阪沿線で育ち、1982年4月大阪大学経済学部に入學しました。在学中の1985年9月に公認会計士第二次試験に合格し、同年10月に監査法人朝日新和会計社(現有限責任あずさ監査法人)に入所。1986年3月に大阪大学経済学部を卒業しました。私の経歴にはいくつかの会社が出てきますが、入社時の世界BIG8の会計事務所が、合併等で4つになったことと、監査法人のコンサルティング部門の売却で会社が変わったことが原因で、実は、自分から会社が変わったことはありません。

本日は、皆様の前でお話しする機会を頂きましたので、「PwCとは何か」「PwCはどんな組織なのか」という点についてお伝えしたいと思います。

PwCは戦略の策定から実行まで手掛ける総合的なプロフェッショナルファームです。グローバルに展開している大きなネットワークですが、株式会社ではなくパートナーシップ形式をとっており、各国にある独立したファームの集合体です。各ファームは知見を共有することで、グループ全体で国際的な高品質サービスを提供できる体制を取っています。

◆「社会における信頼を構築し、重要な課題を解決する」

PwCグループでは「我々が何のために存在し、どのような価値創造を社会で実現するか」を明確にするために「PURPOSE(存在意義)」を定めています。それは「社会における信頼を構築し、重要な課題を解決する」というもので、特に、世界が直面しているメガトレンド(気候変動・世界の分断化・技術革新・人口動態の変化・社会の不安定化等)に向きあい、そのSOLUTIONを提供することを重要視しています。

PwCグループの全世界ベースの売上は2022年で7兆円です。関西の企業で言うと、パナソニックと同じ規模です。従業員も2022年で328千人と10年前の1.5倍に増加しています。日本のPwC Japanグループは2006年に立ち上がり、いくつかの合併を経て、売上2,500億円、従業員約10千人とこの10年で3倍強に成長。中でもコンサルティ

ング・アドバイザー部門は10年で5倍程度と大きく成長しています。

◆社会課題解決のため人材育成を重視

人材育成についてご説明します。わたしたちにとって人材育成は最も重要なものです。

従業員は着実に増えていますが、毎年2,000人以上が入社して約1,000人が辞めていくので、3年で半分近くが入れ替わります。魅力的なファームにするため、従前から社内で働き方改革を進め、従業員満足度(PEI)は78%。女性役職者比率も37%と改善されつつあります。

社会課題解決への取り組みについてご紹介します。PwCは積極的に社会課題に取り組んでいます。被災地支援や、デジタルアップスキリングがその例です。被災地支援では岩手の中小企業や個人事業主の方から会計・税務に関する相談を受ける「なんでも会計相談」を2015年から毎年実施しています。

デジタルアップスキリングは、テクノロジーの変化についていけるように、デジタルスキルを向上させることですが、PwCは、多くの方が取り組みやすいように、ポイント制のスマホアプリを導入し、スキルアップ意欲をゲーム感覚で引き上げるお手伝いをしました。またその一環として、「New World. New Skills.」というキャンペーンを展開しています。中高生を対象に、10年後のデジタル社会の職業と仕事に必要なスキルを考える「未来のしごとワークショップ」を出前授業で開催し、人材の育成に努めています。

最後に、育成した人材は私どものお客様に対して有用なサービスを提供することに加えて、PwCを卒業していく人にも学んだことを他社で役に立てて欲しいと願っています。今日申し上げたことや最近のトレンド、日本の将来について、ご興味のある方はホームページ(<https://www.pwc.com/jp/ja.html>)を是非ご覧ください。本日はご清聴頂きありがとうございました。

令和4年度決算の会計報告

同窓会の重要な収入源は、会員の皆様からの入会金・年会費・協賛金ですが、令和4年度の収入は予算比、前期比ともに減収傾向に歯止めがかからず、厳しい財政状況が続いています。

支出面では、コロナ禍でオンライン開催であった各種会合が会場とオンラインのハイブリッド開催に移行し平常ベースに戻りつつあること、シリーズ講演会「大阪大学経済学経営学のトビラ」の開催、同窓会活性化のための新価値創造調査などにより、事業費、管理費とも予算を上回ることとなり、単年度収支は少額ながら赤字とな

りました。

引き続き経費節減に取り組みますが、今後も同窓会活性化プロジェクトの実行、各種行事のハイブリッド開催や情報発信機能の強化など経費増が見込まれます。

今後の同窓会活動をより充実したものとするには、会員の皆様の同窓会活動への参加および財政の充実が不可欠です。年会費納入・協賛金にご理解とご協力をお願い申し上げます。

事務局長 安竹 素之 (28期・1980年卒)

一般会計収支計算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

科目	(単位：円)		
	予算	実績	差異
I収入の部			
1. 会費・入会金収入	4,680,000	4,254,000	426,000
(1) 入会金	200,000	235,000	△ 35,000
(2) 年会費	2,750,000	2,640,000	110,000
(3) 協賛金	1,600,000	1,286,000	314,000
(4) 特別会費	130,000	93,000	37,000
2. 利息収入	1,200	263	937
3. 雑収入	110,000	137,635	△ 27,635
4. 特別会計戻入	0	0	0
(1) 総会	0	0	0
(2) 運営基金	0	0	0
当期収入合計	4,791,200	4,391,898	399,302
II支出の部			
1. 事業費	1,551,000	1,794,300	△ 243,300
(1) 会報発行費	530,000	401,980	128,020
(2) 名簿作成費	1,000	1,100	△ 100
(3) 総会費	0	0	0
(4) 助成費	210,000	175,000	35,000
(5) HP運営費	220,000	188,284	31,716
(6) イベント費	320,000	345,260	△ 25,260
(7) 活動拠点運営費	270,000	286,676	△ 16,676
(8) 新価値創造調査費	0	396,000	△ 396,000
2. 管理費	2,240,200	2,462,391	△ 222,191
(1) 業務委託費	700,000	720,000	△ 20,000
(2) 会員管理・会費事務費	750,000	838,188	△ 88,188
(3) 事務局管理運営費	300,000	300,000	0
(4) 会議費	420,000	554,860	△ 134,860
(5) 消耗品費	10,000	7,756	2,244
(6) 通信交通費	30,000	20,962	9,038
(7) 慶弔費	20,000	13,860	6,140
(8) 雑費	10,200	6,765	3,435
3. 特別会計繰入	1,000,000	200,000	800,000
(1) 総会	1,000,000	200,000	800,000
(2) 運営基金	0	0	0
4. 予備費	0	0	0
当期支出合計	4,791,200	4,456,691	334,509
当期収支差額	0	△ 64,793	64,793
前期繰越収支差額	1,980,060	1,980,060	0
次期繰越収支差額	1,980,060	1,915,267	64,793

特別会計収支計算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

科目	(単位：円)		
	予算	実績	差異
(1) 総会特別会計			
I収入の部			
1. 一般会計より繰入	1,000,000	200,000	800,000
(1) 総会	1,000,000	200,000	800,000
当期収入合計	1,000,000	200,000	800,000
II支出の部			
1. 一般会計へ戻入	0	0	0
(1) 総会	0	0	0
当期支出合計	0	0	0
当期収支差額	1,000,000	200,000	800,000
前期繰越収支差額	800,000	800,000	0
次期繰越収支差額	1,800,000	1,000,000	800,000

(2) 運営基金特別会計

(単位：円)

科目	予算	実績	差異
I収入の部			
1. 一般会計より繰入	0	0	0
当期収入合計	0	0	0
II支出の部			
1. 一般会計へ戻入	0	0	0
当期支出合計	0	0	0
当期収支差額	0	0	0
前期繰越収支差額	13,000,000	13,000,000	0
次期繰越収支差額	13,000,000	13,000,000	0

(3) 周年記念事業特別会計

(単位：円)

科目	予算	実績	差異
I収入の部			
1. 譲受金収入	0	0	0
当期収入合計	0	0	0
II支出の部			
1. 学生部会活動助成費	250,000	149,800	100,200
2. 予備費	100,000	0	100,000
当期支出合計	350,000	149,800	200,200
当期収支差額	△ 350,000	△ 149,800	△ 200,200
前期繰越収支差額	3,715,182	3,715,182	0
次期繰越収支差額	3,365,182	3,565,382	△ 200,200

経済学部同窓会懇親ゴルフのご案内

日時 2024年6月1日(土)

場所 関西クラシックゴルフ倶楽部 〒673-1123 兵庫県三木市吉川町湯谷567

参加費 2万円程度 (昼食代、懇親会費込み)

参加ご希望の方は、メール、FAX、電話にて同窓会事務局(P12)までご連絡ください。
皆様の参加をお待ちしております。



学生部会 (ECOCA) の活動

学生部会 (ECOCA) 会長

稲垣 優美

縦と横のつながりを深め、活気あふれる大阪大学経済学部になりたい

こんにちは。第15期の会長を務めました稲垣優美です。同窓会の皆さまには日頃から私たちの活動をご支援いただき、心から感謝申し上げます。

ECOCAは、「学部の学生同士、そしてOBOGの方々と学生の交流の機会を増やし、学部の縦、横のつながりをより強いものにして活気あふれる大阪大学経済学部になりたい」「勉強会、学生による就職説明会など各種行事を行い、学部生が社会に出てから活躍できるように自分たちの磨く場を提供したい」という二つの理念を掲げ、2009年から活動しています。運営メンバーは現在35名で、特に1回生が11名と活気ある組織です。最近では1回生中心にSNSの強化やスケジュールの見直しを行い、コロナ禍を乗り越え新しいイベント運営に乗り出しています。

私が加入した2021年は、コロナの影響で対面での

活動がしにくい時期でした。しかしその状況でも、工夫して交流の場など積極的に関わりを作ってくれた当時の4回生の努力のおかげで、今もECOCAを続けられています。これまでイベントリーダーや幹部として活動する中、環境が変化して例年どおりできず、苦戦したこともたくさんありましたが、それが今の自分の強みとなっています。ECOCAに参加して自分自身、縦と横のつながりなど多くの貴重な経験ができました。

残り1年は、後輩たちが活動しやすい環境を作ることに尽力します。また、同窓会の皆さまとも、これまで以上に関わる機会を設けることができれば幸いです。

どうぞこれからもECOCAをよろしく願いいたします。



【OBOG交流会】
社会で活躍する先輩方と学部生との交流会。今年はレストランで開催し、ご飯を楽しみつつ大盛況でした。



【スタッフ研修】
ECOCAの活動の理解を深め、運営メンバーの仲を深めることを目的に研修会を行いました。特に1回生と上回生との仲が一気に深まりました。

【2023年度企業探求セミナー】
4社×3日間で計12社の企業にご参加いただきました。就活の早期化を見据え、1～2回生を主な対象としました。



【同窓会、先生方との会食】
大学内の食堂らぶおれで開催。ECOCA運営メンバーも1～4回生まで参加し、貴重な機会をいただきました。



学びのプログラム「大阪大学経済学・経営学のトビラ」にぜひご参加を

私たちの共通の学問分野である経済学・経営学をより身近なものにしようと、2021年度からスタートした「大阪大学経済学・経営学のトビラ」。経済学部の先生、学生、卒業生が自由に参加できるように会場とオンラインのハイブリッド形式で開催しています。今後もメール等でご案内しますのでどしどしご参加ください。

大阪大学経済学・経営学のトビラ 2023年度開催実績

回	開催日	テーマ	講師
第14回	2023/4/11	レスキャッシュ時代の成長戦略	グローリー(株) 代表取締役社長 三和 元純氏 (25期)
第15回	2023/5/31	大阪大学・関西スタートアップエコシステム形成に向けて	大阪大学ベンチャーキャピタル(株) 代表取締役 清水 速水氏
第16回	2023/7/1 (総会記念講演)	総合プロフェッショナルサービスファームへの道—社会に必要とされる専門家集団	PwCコンサルティング合同会社 会長 鹿島 章氏 (34期)
第17回	2023/9/20	顧客価値イノベーション：キーエンスとアップルの高付加価値経営	大阪大学大学院経済学研究科 教授 延岡 健太郎氏
第18回	2023/10/11	地方創生と日本の未来	大阪大学大学院経済学研究科 教授 上須 道德氏
第19回	2023/12/21	経済学 この60年を振り返る	大阪大学名誉教授 猪木 武徳氏
第20回	2024/3/5	終わりなき創意工夫と深化(進化)—創造と進化が伝統を紡ぐ	宝蔵院流高田派槍術 第22代流派代表 駒喜多 学氏 (48期)

心理的資本と人的資本経営

大阪大学大学院経済学研究科 教授 開本 浩矢



ヒト・モノ・カネなどの限られた資源をいかに活用し豊かな社会を実現するか—経済学が普遍的に取り組む課題です。VUCAの時代と言われる現代において、ヒト(人的資源)の潜在的可能性を引き出し、イノベーションを生み出すために必要とされる新たな概念「心理的資本」。今回はその概念と有用性について、大学院経済学研究科 開本教授にご寄稿いただきました。

昨今巷では「新しい資本主義」や「人的資本経営」といった用語とともに、ヒトという経営資源への注目がかつてなく高まっている。たとえば、人材版伊藤レポート2.0(注1)では「人的資本」の重要性を指摘するとともに、人的資本経営をどう具体化し、実践に移していくかについて提言を行っている。古くから経営学の世界でもモノ、カネ、情報と並んで、ヒトが重要な経営資源の一つとして認識されてきたことに異論はないだろう。それでは、なぜヒトが経営資源として重要で、なぜヒトへの投資を行わなければならないのだろうか? こうした疑問に対する一つの答えを提示してくれるのが以下で述べる心理的資本という新しい概念である。

価値を生み出すヒト=人材の育成とは

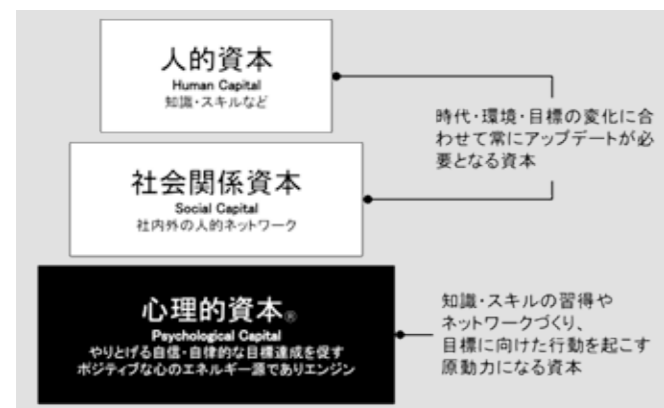
経営学は、歴史的にヒトがなぜ付加価値を生み出せるのかについて以下のようにとらえてきた。

第1は、ベッカー教授による**人的資本**である。ヒトは、知識、スキル、能力によって把握され、豊かな知識や高いスキルを持つことで生産や販売という職務を遂行する、すなわち付加価値を生み出すと考えられた。したがって、企業はいかに高い知識やスキルを持つ人材を確保するかを重視し、企業内での研修や教育を行うことが望ましいとされた。

第2は、**社会関係資本**という考え方である。人間関係、信頼、ネットワークが豊富な人は就職しやすく、人生への満足感や幸福感が高くなることが研究で明らかになっている。ヒトは人間関係を幅広くもっているからこそ付加価値を生み出せるのである。

第3は、VUCA(注2)という状況下で生まれ、人の付加価値を感情面からとらえようとする**心理的資本**(図1参照)である。心理的資本は、人の持つ前向きな心理的状态のことであり、スキルや能力を活用するうえでのエンジンとなる存在である。たとえば、豊富な知識やネットワークを持ったプロフェッショナルであっても、その活用に対する自信や失敗にへこたれない強さがなければ、最終的な成功は望めない。わかりやすい表現を使えば、心理的資本とはヒトが各自の持つポテンシャルを発揮しようと前向きでイキイキしている状態であるともいえる。

図1 心理的資本と他の資本との相違



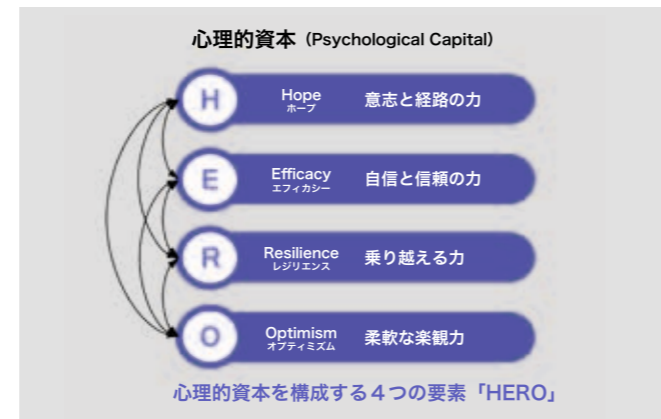
(注1) 経済産業省が「人的資本経営の実現に向けた検討会」における検討内容に基づき2020年9月に公表した最終報告書。
 (注2) 変動性 (Volatility) 不確実性 (Uncertainty) 複雑性 (Complexity) 曖昧性 (Ambiguity) の頭文字からつくられた造語。予測不能な変化が頻繁に起こる状況を意味する。

このように考えると、人材育成の本質とは、心理的資本をいかに蓄積できるかにかかっているといえる。ここで重要な観点は、人材マネジメントの焦点が人材の獲得ではなく、今いる人材の活性化へと移っていることである。ヒトの可能性への注目と人材不足下の人事マネジメントの組み合わせが心理的資本の底流に流れている。

心理的資本の4要素

心理的資本はもともと米国・ネブラスカ大学のルーサンス教授が提唱した4つの基本要素から構成される心理的概念であり、各要素の頭文字を取って「HERO」と称されている。

図2 心理的資本の4要素



第1の要素である**ホープ**とは、自身で設定した明確な目標やゴールに対する熱意や積極性を伴っている。明確な目標を立てることは目標に対する意欲やモチベーションを高めることは心理学的にも実証されている。たとえば、昨今の新型コロナ禍において急減した売上を伸ばそうとする外食産業の経営者が漠然とした売上向上を目指すのではなく、四半期ベースで対前年比10%減を短期的目標に設定し、売上向上のために持ち帰りやデリバリーへの対応、業態変更といった複数の戦略を考えることができるなら、経営者のホープが

その原動力となる。

第2の要素は**エフィカシー**である。日本語では有能感や自信といった言葉で語られている。新たな行動をとろうとする際に、その行動ができそうだという主観的な見込みを意味する。エフィカシーを高めるための最も強力な方法は「成功体験」である。うまくいった体験そのものが強力に自信を生み出すことは誰しも経験があるだろう。次に、「モデリング」である。身の回りのヒトが成功したのを見聞きすることで、自分でもできそうだという気持ちが芽生える。さらに「言語的説得」である。尊敬する上司が部下に対して「君ならできる!」と言葉を投げかけることによって、部下は「よし、やってみよう!」と意気込むことは十分に予想される。最後に「情動喚起」とよばれるリラックスした精神状態である。チャレンジ精神がない、保守的になったという場合には、一度自信を刺激する4つの方法を試してもらいたい。

第3の要素である**レジリエンス**とは、失敗や挫折からの立ち直り、さらに成長する力を意味する。たとえば、東日本大震災を含む自然災害からの復興では、人々のレジリエンスが重要な役割を果たしたと考えられる。また、思いがけない昇進や抜擢された人がその重圧から立ち直り、見事に重責を果たすまでに成長する過程でもレジリエンスが作用する。レジリエンスを高めるには、立ち直る力を生み出す力(アセット)を高めるために、良いメンターや誠実な上司を持つことや強みを強化するジョブ・ローテーションなどが有効である。

第4の要素である**オプティミズム**とは、好ましい出来事を個人的・普遍的・広汎的な原因ゆえだと解釈し、ネガティブな出来事については、外的・一時的・状況特有の要因のせいだと解釈する説明スタイルを意味している。わかりやすくいえば、うまくいった場合には積極的に自分自身の努力の賜物だと解釈し、失敗した時には環境や周りのせいだと解釈する手前味噌な心理的メカニズムでもある。一見自己中心的だと思えるが、たとえば、コロナ禍のような基本的安全が脅かされる過酷なビジネス環境では、たとえ根拠がなくとも楽観性をもつことが、企業家のモチベーションには有益なのである。ネガティブな出来事に対して環境のせいにしてしまうことで将来へのポジティブな展望が開けるからである。

心理的資本の開発と心理的資本介入

心理的資本は心の状態で、モチベーションのように一過性で不安定ではなく、計測・開発が可能であり、個人や組織の取り組みによって意識的に、中長期的に向上させられる力である。企業内のマネジメントやメンタリングの場においては、対象者の課題解決や目標達成を目指す行動をHEROの各要素に基づく投げかけやコミュニケーション、フィードバックを行いながら自律的な成長を促す伴走・支援を行う(心理的資本介入)ことにより心理的資本の向上につながる実証されている。

心理的資本の有用性

最後に、心理的資本の有用性に触れておきたい。これまでの研究を振り返ると、パフォーマンスに加え、満足感ややりがいを高めることが明らかになっている。また、離職意思やストレスを抑制することが期待され、人材の定着にとっても有益である。近年、健康経営が注目を集めるようになってきているが、ウェルビーイングを高めることも分かってきた。筆者らの調査では、医療介護専門職の心理的資本が彼らの離職意思を抑制し、創造性を高めるだけでなく、患者・利用者の満足度も高めることが明らかになっている。心理的資本は、人材不足化における人的資源の有効活用に必要な可能性をもたらす概念であり、人的資本経営を考えるうえで重要な概念でもある。

【著書紹介】

心理的資本をマネジメントに活かす 人と組織の成長を加速する「HERO」を手に入れる

開本 浩矢・橋本 豊輝 著

(中央経済社 2023/9)
 定価: 2,640円(税込)

心理的資本により人本来の力が発揮され、人が生きるマネジメントを行うための考え方を提示。



代表幹事紹介



卒業から35年を振り返って

吉田 正明 (37期・1989年卒)

昭和から平成へと元号が変わった1989年（平成元年）。私が卒業して関西電力に入社したこの年、日経平均株価は38,900円台を記録。日本経済はバブル絶頂期でした。その後すぐ、バブルが崩壊。今年2月の日経平均株価の最高値更新まで約35年かかりました。企業人としての私の生活は、失われた30年と呼ばれるこの時代と重なりますが、新規事業の立ち上げや海外駐在など、厳しい中にも楽しい経験もできました。

仕事以外では、50歳になった年に合唱団に入団。音楽経験は吹奏楽だけでしたが、今は年末の第九も含めて年2、3回、ステージでハーモニーを奏でています。



話を同窓会に移すと、大阪大学経済学部同窓会の書記を長年にわたり務めています。仕事の都合で代表幹事会に出席することが難しい時期もありましたが、同窓会員である企業の経営者、大学の先生方、業界の異なる先輩方と、お会いしてお話できることが魅力で、可能な限り都合をつけて出席するようにしています。代表幹事としては、これまで同期会が開催できていないので、小規模な集まりからでも始めたいと思っています。平成元年卒の皆さんから、この原稿を読んでメールいただけると嬉しいです。

yukitaku10151216@ares.eonet.ne.jp

代表幹事紹介



久しぶりに同期で旅行

津田 龍司 (33期・1985年卒)

33期の代表幹事はジャンケンで竹岡ゼミの幹事に決まったとのこと。ただその彼がすぐに東京勤務となったため、同じゼミ、同じサークルで大阪ガスに入社した私が関西勤務ということで彼から頼み込まれ引き受ける羽目に。以来30数年間代表幹事です。

学生時代は「ピッコロ」というテニスのサークルに所属。サークルには経済学部同期が10数人いて、卒業後もサークルの仲間中心に同期との懇親を続けています。ここ数年はコロナ禍でリアルな会はできませんでしたが、今年の1月、久しぶりに旅行に出かけました。東京組と関西組がほぼ半々なので今回の行き先は静岡・焼津温泉。夜も遅くまで楽しい時間でした。学生時代の友人は何の気兼ねもなくいつまでもつきあえる大切な仲間ですね。

同窓会活動はまずはヨコ（同期）のつながりがベースにあって、タテのつながりがあると思います。33期全体の同期会は10数年ほど前にやったきりですが、還暦も過ぎ、久しぶりに集まればと考えています。その際は33期の皆さん、よろしくお祈りします。年会費の納入もお願いしますね！



後列中央は井上同窓会会長

代表幹事紹介



人とのつながりを大切に

前田 紀幸 (40期・1992年卒)

第40期の同窓会代表幹事を務めております前田と申します。2～3年前に椎葉教授から40期の代表幹事就任打診のご連絡を頂き、お請け致しました。同窓会の運営体制やメンバーの方々は全く存じておりませんでしたが、人とのつながりを拡げていく良い機会になればと考えた次第で、お声がけ頂き感謝しております。

私自身は、大学卒業以来、日本電気株式会社（NEC）に勤務しておりましたが、2023年4月から阪急阪神

ホールディングス並びに阪神電鉄グループのIT企業「アイテック阪急阪神株式会社」に出向しております。2023年は阪神タイガースの日本一もあり、業績・雰囲気共に盛り上がりましたが、新たな人とのつながりを拡げていく貴重な機会となりました。

また、代表幹事就任以降、様々なイベントへ参加させて頂き、諸先輩方や学生の方々と接することができました。ただ、このような有り難い機会を提供頂ける同窓会の運営継続には大きな課題があります。特に、中堅層や若手の会費納入が減少しており、早期の改善が必要な状況です。

人とのつながりを拡げる機会を頂ける同窓会の魅力を高め、課題解消に向けて微力ながら努力したいと思っておりますので、よろしくお祈り致します。



代表幹事紹介



同窓会と学部の連携を深めたい

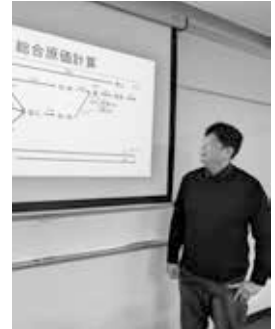
椎葉 淳 (43期・1995年卒)

1995年卒・第43期の代表幹事をしております椎葉です。こんにちは。

私は経済学部を卒業したあと大学院に進み、追手門学院大学・経営学部に講師として就職しましたが、その後2003年4月からはまた大阪大学経済学部に戻ってきました。大阪大学経済学部に所属している期間を合計すると、2024年3月で30年になろうとしています。今でも、豊中キャンパスにある研究室に毎日通っています。

私は現在、大阪大学経済学部で教授をしていることから、同窓会では大学連携部会の部会長を担当し

ています。そのこともあって、私のゼミでは年に数回、卒業生の皆さんに登壇いただき、「キャリアについて考える」というテーマで、これまでの経験を学生に共有してもらっています。2023年度は7月の同窓会総会でお会いした3名の卒業生、47期の別枝さん、48期の山田さん、70期の橋本さんに声をかけ、後期の私のゼミに参加していただきました。毎回大変好評でしたので、将来的には私のゼミ生以外の学生や、多くの卒業生も参加できるイベントに拡大し、終了後には懇親会を開催するなどして、同窓会と経済学部との連携を深める活動を展開したいと考えています。その際には、皆さんにもぜひ参加いただけることを期待しています。



代表幹事紹介



息子と共に遊び、学ぶ

酒井 誠行 (56期・2008年卒)

同窓会員の皆様、第56期代表幹事の酒井と申します。

私は現在、西松屋の経理部に所属しており、日々の会計処理や決算業務、税務業務に取り組んでいます。最近のトピックスは、「インボイス制度への対応」。山積みの課題に2019年の増税時より大変なのではないかと思いながらも、何とか10月の制度適用を迎えることができました。

そんな私の楽しみの一つが、休日に4歳と6歳の息子と過ごすことです。

だんだん出来るが増えてきた息子たち、一緒

に楽しめることも増えてきました。先日は初めての沖縄旅行に行ったのですが、特に気に入っていたのが、「チームラボ 学ぶ未来の遊園地」という体験型の施設でした。

こちらのコンセプトは「共同的な創造性（共創）」ということで、専用の画用紙に自分で描いた絵が壁に投影されて登場したり、自分の動きに合わせてデジタルアートたちが動いたりする様子を見て、息子たちは大喜び。私も最先端の技術に驚きながら、とても楽しむことができました。

AIや自動化が進んでいる昨今、創造的な分野はより重要度を増しています。私自身はあまり得意ではない分野なので、このような体験を通じて息子と一緒に遊びながら学ぶことができたと感じました。



各期の代表幹事

(敬称略)

卒期	卒年	氏名	卒期	卒年	氏名	卒期	卒年	氏名	卒期	卒年	氏名
旧1期	1951	角井 壽保	22期	1974	梅名 義昭	39期	1991	玄田 真一	57期	2009	川原 徹也
4期	1956	小川 泰造	23期	1975	藤田 佳久	40期	1992	前田 紀幸	58期	2010	前野 良太
5期	1957	野原 康彦	24期	1976	富田 安信	41期	1993	島田 真吾	59期	2011	中川 典哉
6期	1958	森 康次	25期	1977	坂本 孝治	42期	1994	外山 俊明	60期	2012	大川 淳士
8期	1960	木下 萬蔵	26期	1978	藪本 冬樹	43期	1995	椎葉 淳	61期	2013	中道 周平
9期	1961	小島 勝利	27期	1979	岡本 光司	44期	1996	高石 秀之	62期	2014	佐野 徹
10期	1962	谷 森 努	28期	1980	安竹 素之	45期	1997	濱田 出	63期	2015	廣田 和夫
11期	1963	中野 一輝	29期	1981	河添 正己	46期	1998	大谷 尚資	64期	2016	田中 千紗乃
12期	1964	木越 正宣	30期	1982	三木 孝	47期	1999	大橋 弘幸	65期	2017	岸本 智弘
13期	1965	蒲田 建三	31期	1983	小林 敏男	48期	2000	駒喜多 学	66期	2018	吉田 侑真
14期	1966	高木 正彬	32期	1984	尾形 元	49期	2001	谷岡 佳昭	67期	2019	村山 愛子
16期	1968	谷内 増夫	33期	1985	津田 龍司	50期	2002	高岸 寛幸	68期	2020	加藤 優介
17期	1969	井垣 成量	34期	1986	奥村 麻由美	51期	2003	呉服 淳二郎	69期	2021	山澤 正和
18期	1970	田中 克明	35期	1987	友田 泰弘	53期	2005	堺 信夫	70期	2022	橋本 克
19期	1971	南向 明博	36期	1988	藤原 正啓	54期	2006	赤川 正周	71期	2023	田野 佑也
20期	1972	南 俊光	37期	1989	吉田 正明	55期	2007	角垣 旭彦	72期	2024	加藤 寛之
21期	1973	元木 幹治	38期	1990	山口 一	56期	2008	酒井 誠行			

東京待兼会だより

会長 西本 麗 (28期・1980年卒)

東京待兼会では、東日本の同窓生の交流促進のため、さまざまな活動を行っています。

1. 春季・秋季懇話会

昨年は久々に対面での懇話会を再開しました。春季はOFC(経済学部オープンファカルティセンター)と、秋季は法学部同窓会(青雲会)との共催です。春季ではオンラインも含めたハイブリッド方式を採用しました。

【春季懇話会】

5月31日18時から学生会館で開催し、オンライン(ZOOM)でも中継しました。大阪大学ベンチャーキャピタル代表取締役の清水速水様が登壇され、「大阪大学・関西スタートアップのシステム」というテーマでご講演いただきました。会場参加者30名、オンライン参加者36名でした。会場では懇親会を催しました。また同窓会の「大阪大学経済学・経営学のトビラ」シリーズの一環として後日オンデマンド配信し、107件のアクセスがありました。



2023年春季懇話会の様子



【秋季懇話会】

12月16日(土)二松学舎大学で15時40分から大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)教授 伊藤武志先生をお招きして「共感に基づく『三方よし』の経済社会を共に創る ～大阪大学の万博・SDGsに向けての取り組み

み」というテーマで約1時間ご講演をいただきました。同じくその後懇親会を催しました。青雲会・咲耶会も合わせて30名の参加がありました。

本年は、5月31日(金)18時30分から学生会館で総会ならびに春季懇話会を予定しています。講師は大阪大学経済学部名誉教授・中央大学経済学研究科阿部顕三教授にお願いしています。終了後に立食形式の懇親会も予定しています。なお、本講演会はトビラシリーズの一環として後日オンデマンドでもご覧いただけるよう録画の配信を予定しています。

2. 例会

「知の継承」をめざし例会(勉強会)を開催しています。こちらもハイブリッド方式で実施しています。毎回10～20名程度の参加。講師は基本的に同窓生の持ち回りです。

第31回 9月13日

久保恵一氏(24期)「東芝の迷走と買収提案」

第32回 11月6日

田中良和氏(工学部造船工学科1979年卒)

「船舶のGHG削減策としての風力利用」

3. ゴルフ部会

令和5年9月26日、咲耶会との合同ゴルフコンペを初めて開催しました。

今後も他学部同窓会との共同開催も含めてコンペを検討しています。

4. ビアパーティー他

昨年は同窓会本部とも連携し、令和元年から5年卒業の同窓生を対象にした行事を実施しましたが、今後も特に若手の会員が参加しやすい行事を検討する予定です。

名古屋待兼会だより

会長 藤原 政雄 (19期・1971年卒)

名古屋待兼会は、経済学部、法学部の卒業生を中心に昭和30年代に発足し、現在は全ての学部の卒業生により構成されています。愛知・岐阜・三重にお住まいの方が主な会員です。会の活動は「小の月の第三土曜日の18時から」を基本に例会と11月は総会開催です。例会では、講師担当の会員が30分ほど講話、その後会食懇談を楽しみます。

コロナ感染拡大に伴う休会から一昨年6月に例会を再開、途切れることなく開催できること、仲間と懇談できる喜びを感じています。11月の総会には来賓とし



て武田法学部長をお迎えし、ご講演をいただきました。大学渉外部門の中村麻貴さんには2016年総会以来の再会にご縁を感じました。

会への出席者の多くは世代を超えた会員同士の語らいを楽しみにしています。会に参加いただければこの楽しみを共有いただけることでしょう。(関心のある方、同窓会事務局までご連絡ください。)

昨年の総会・例会のテーマは以下の通りです。

■ 4月例会「全国居酒屋巡り」

藤原政雄 (S46経)

■ 6月例会「面白い仏教」

鳥羽郁夫 (S52経)

■ 9月例会「名古屋の動植物園 いまむかし」

中嶋利幸 (S46法)

■ 11月総会

法学部長武田先生に「豊中キャンパスでの学び 法学部教育を中心に」のテーマでお話をいただきました。

新幹事紹介



第72期代表幹事
加藤 寛之

この度同窓会第72期代表幹事を務めさせていただくことになりました、加藤寛之と申します。

大学生活では「つながりの大切さ」を痛感しました。入学と同時にコロナ禍が始まった影響で、講義を含め対面で交流できる場がなくなり、友人を作りづらい状況が2年ほど続きました。制限が緩和されると徐々に大学の友人ができ、刺激的な日々となりました。大学には多様なバックグラウンドや価値観を持った人が集まっており、視野が大きく広がりました。つながりが持てない期間があったからこそ、つながりの大切さを身に染みて感じました。一方で、コロナによる制限

があった影響は大きく、この学年は縦・横のつながりが希薄になっていると感じています。大学生の期間での交流が思うようにできなかった学年だからこそ、私たちにとって同窓会の存在意義がより高まっているように思います。

そんな同窓会の代表幹事という大役を務めさせていただくことに対して不安はありますが、卒業後も大阪大学経済学部に関わり続けることは非常に嬉しく思います。同窓会のさらなる発展と活発化のため、微力ながら努めてまいります。

皆様には引き続きお世話になることと思っておりますが、どうぞよろしくお願いたします。

2023年度経済学部卒業生就職・進学先 (大学院卒を含む)

(順不同)

就 職 先	人数	(株) ク	ポ	タ	1	東京電力ホールディングス(株)	1	(株)マネジメントソリューションズ	1
IBM Japan Holdings合同会社	1	KPMGコンサルティング(株)	1	有 限 責 任 監 査 法 人 ト ー マ ツ	3	丸 三 証 券 (株)	1		
AKKODiSコンサルティング(株)	1	(株)ケンコー・トキナー	1	豊 田 通 商 (株)	1	(株)みずほ銀行	4		
アサヒビール(株)	1	(株)コナミデジタルエンタテインメント	1	(株)豊通シスコム	1	み ず ほ 証 券 (株)	2		
アジアクエスト(株)	1	小 林 製 菓 (株)	1	ト ラ ン ス ・ コ ス モ ス (株)	1	(株)みずほフィナンシャルグループ	1		
有限責任あずさ監査法人	3	(株)ザイマックス	1	西 日 本 電 信 電 話 (株)	1	三 井 住 友 カ ー ド (株)	1		
(株)アバント	2	財 務 局	1	西 日 本 旅 客 鉄 道 (株)	1	(株)三井住友銀行	7		
アビームコンサルティング(株)	1	GMOインターネットグループ(株)	1	日 清 食 品 (株)	1	三 井 住 友 信 託 銀 行 (株)	6		
アマゾンジャパン合同会社	1	(株)ジーニー	1	(株)日本政策投資銀行	1	三井住友トラスト・システム&サービス(株)	1		
EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)	2	(株)ジェイアール東日本企画	1	(株)ニトリホールディングス	1	三 井 物 産 (株)	1		
イオンフィナンシャルサービス(株)	1	(株)ジェーシービー	1	日 本 生 命 保 険 相 互 会 社	4	三 菱 ガ ス 化 学 (株)	1		
(株)池田泉州銀行	1	鈴 與 (株)	1	日 本 タ タ ・ コ ン サ ル タ ン シ ー ・ サ ー ビ ス (株)	1	三 菱 重 工 業 (株)	1		
伊藤忠商事(株)	2	住 友 化 学 (株)	1	農 林 中 央 金 庫	2	三 菱 総 研 D C S (株)	1		
(株)インゲージ	1	住友生命保険相互会社	1	(株)ノースランド	1	(株)三菱UFJ銀行	3		
AREホールディングス(株)	1	(株)セガエックスディー	1	パ ー ソ ー ル ワ ー ク ス イ ッ チ コ ン サ ル タ ン グ (株)	1	三 菱 U F J サ ー チ & コ ン サ ル タ ン グ (株)	2		
S M C (株)	1	全 日 本 空 輸 (株)	1	伯 東 (株)	1	(株)宮崎銀行	1		
S M B C 日 興 証 券 (株)	2	第 一 生 命 保 険 (株)	2	パ ナ ソ ニ ッ ク エ ナ ジ ー (株)	1	(株)メディアハウスホールディングス	1		
(株)NTTデータSMS	1	ダ イ キ ン 工 業 (株)	1	(株)バンダイ	1	(株)メンバーズ	1		
(株)NTTドコモ	2	(株)ダイテック	1	(株)バンダイナムコエンターテインメント	1	U B S ア セ ッ ト ・ マ ネ ジ ム ン ト (株)	1		
エムエスティ保険サービス(株)	1	(株)大丸松坂屋百貨店	1	ピ ー ・ シ ー ・ エ ー (株)	1	(株)ラクト・ジャパン	1		
エム・ユー・エス情報システム(株)	1	(株)大和証券グループ本社	1	東 日 本 高 速 道 路 (株)	1	(株)りそな銀行	3		
大 阪 ガ ス (株)	1	(株)竹中工務店	1	ヒ ュ ー リ ッ ク (株)	1	(株)リンクアンドモチベーション	1		
(株)オープンハウスグループ	1	(株)ディー・エヌ・エー	1	富 士 フ ィ ル ム (株)	1	(株)リンクエッジ	1		
沖 電 気 工 業 (株)	1	デロイト・マツコンサルティング合同会社	2	プ ラ イ ム フ ラ ン ツ エ ン ジ ー & ソ ル ュ ー シ ョ ン (株)	1	(株)scatterlab	1		
関 西 電 力 (株)	1	デロイト・マツファイナンシャルアドバイザリー合同会社	1	(株)ブルボン	1	エ ス ネ ッ ト ワ ー ク ス (株)	1		
(株)キーエンス	1	(株)電通国際情報サービス	1	(株)ペイカレント・コンサルティング	5	(株)globe	1		
ギブクリエーション(株)	1	(株)電通デジタル	3	(株)ベネッセコーポレーション	1	合 計	155		
(株)クオカード	1	東京海上日動火災保険(株)	3	(株)ボーンズ	1				
(株)クニエ	1	東 京 ガ ス (株)	1	本 田 技 研 工 業 (株)	1	進 学	8		

2024年2月8日現在、大学で集計されたデータをもとに作成したものです

同窓会の「年会費」、または「協賛金」の納入のお願い!!

同窓会の活動は皆さんからの年会費・協賛金で成り立っています ぜひご協力を

シリーズ講演会「経済学・経営学のトビラ」や会報「待兼山」など同窓会の活動は皆さんからの年会費・協賛金で成り立っており、現在、同窓会活性化の取り組みも行っています。また財政事情の厳しい中、会則の改訂により卒業後（正会員資格取得後）40年を経過した方の年会費免除制度が廃止されました。

年会費(5,000円)の納入、または協賛金(1口1,000円、できれば3口以上)のご協力をぜひよろしくお願いいたします。

年会費・協賛金は、口座引き落とし、コンビニ、郵便局等で納付いただけます。コンビニ用振込用紙のバーコードでPayPay、auPay、LINEpay、PayBでのスマホ決済も可能です。



会費を納入いただいた方は、WEB名簿の閲覧・検索、ガーデンシティクラブ大阪の利用などができます。詳細は大阪大学経済学部同窓会ホームページをご覧ください。

同窓会費納入者の特典～「ガーデンシティクラブ大阪」をぜひご利用ください

年会費あるいは協賛金を納入いただいた方には、同窓会会員証を送付させていただきます。

当同窓会ではハービスOSAKAにある会員制クラブ「ガーデンシティクラブ大阪」(GCCO)に法人会員として加入しています。会員証をご提示いただくとメンバー扱いでご利用できます。

同窓会会員は個室5室(収容10～120名)を利用可(有償)、ラウンジ(平日11:30～23:00)は会員証提示により特別割引などがあります。同窓会会員の憩いの場として奮ってご利用ください。

- 【会員特典例】
- ・ラウンジにてコーヒー無料サービス(14:00～17:00)
 - ・会員価格パーティプラン(料理+飲み放題、税込)7,000円/人



シャンデリアが輝くラグジュアリーなクラブラウンジ

「ガーデンシティクラブ大阪」(略称: GCCO)

大阪市北区梅田 ハービスプラザ6階(JR大阪駅、地下鉄西梅田駅から徒歩約5分)

TEL: 06-6343-7770 FAX: 06-6343-7773 HPアドレス: <https://www.gcco.jp>

ご存知ですか? WEB会員名簿で同窓生の情報の閲覧・検索が可能です

同窓会ホームページ上部の「会員ログイン」からWEB会員名簿にアクセスできます。ID・パスワードは当会報に同封していますが、ご不明な場合は同窓会事務局までお問い合わせください。

ログインするとご本人の登録情報が表示されます。年会費を納入いただいた方は、全同窓生15,507名の情報も閲覧でき、卒業期や勤務先、出身高校などで検索もできます。この機会にご自身の情報をご確認ください。



※表示は旧ホームページのものです。4月1日からリニューアルのため変更となります。

同窓会ホームページ、WEB会員名簿のリニューアル～2024年4月1日オープン

経済学部同窓会のホームページおよびWEB会員名簿のリニューアルを行います。2024年4月1日(月)からリニューアルオープンします。しばらく情報更新ができず会員の皆様にはご不便をおかけしておりましたが、各種情報の発信、名簿情報の整備に取り組んでまいります。同窓会に関する情報がございましたら事務局まで情報提供をよろしくお願いいたします。

WEB会員名簿につきましては、現行のID、パスワードでご利用いただけます。ご不明な点などございましたら新しいホームページの「お問い合わせ」からどうぞ。

アクセス先

同窓会ホームページ: <https://www.web-dousoukai.com/machikaneyama/>

WEB会員名簿: <https://www.web-dousoukai.com/machikaneyama/weblist/>



何でも気軽に
お問い合わせ下さい

■同窓会事務局 大阪大学経済学部同窓会事務局

E-mail: machikane@econ.osaka-u.ac.jp TEL: 06-6850-5275(火・木・金13～17時) FAX: 06-6850-5276